

将来人口フレームの設定

都市計画マスタープランにおける目標人口の設定について

全国的な人口減少社会が到来し、行田市においても人口減少に歯止めをかけることは最も重要な課題であるが、近年の人口動向をみると、今後人口を増加させることはきわめて難しい状況である。

第5次行田市総合振興計画では、様々な施策の展開により人口の現状維持を図っていくことで、平成32年の目標定住人口を87,000人（交流人口を加えた『まちづくり人口』100,000人）に設定している。

今回策定する都市計画マスタープランにおける目標人口は、上位計画である第5次行田市総合振興計画における人口推計方法を踏襲し、「施策展開による人口減少緩和」と「交流人口」を加味した将来人口フレームを設定する。

【目標年次】	平成44年度（平成25年度から20年間）
【将来人口フレーム】	定住人口 70,000人（まちづくり人口 83,000人）

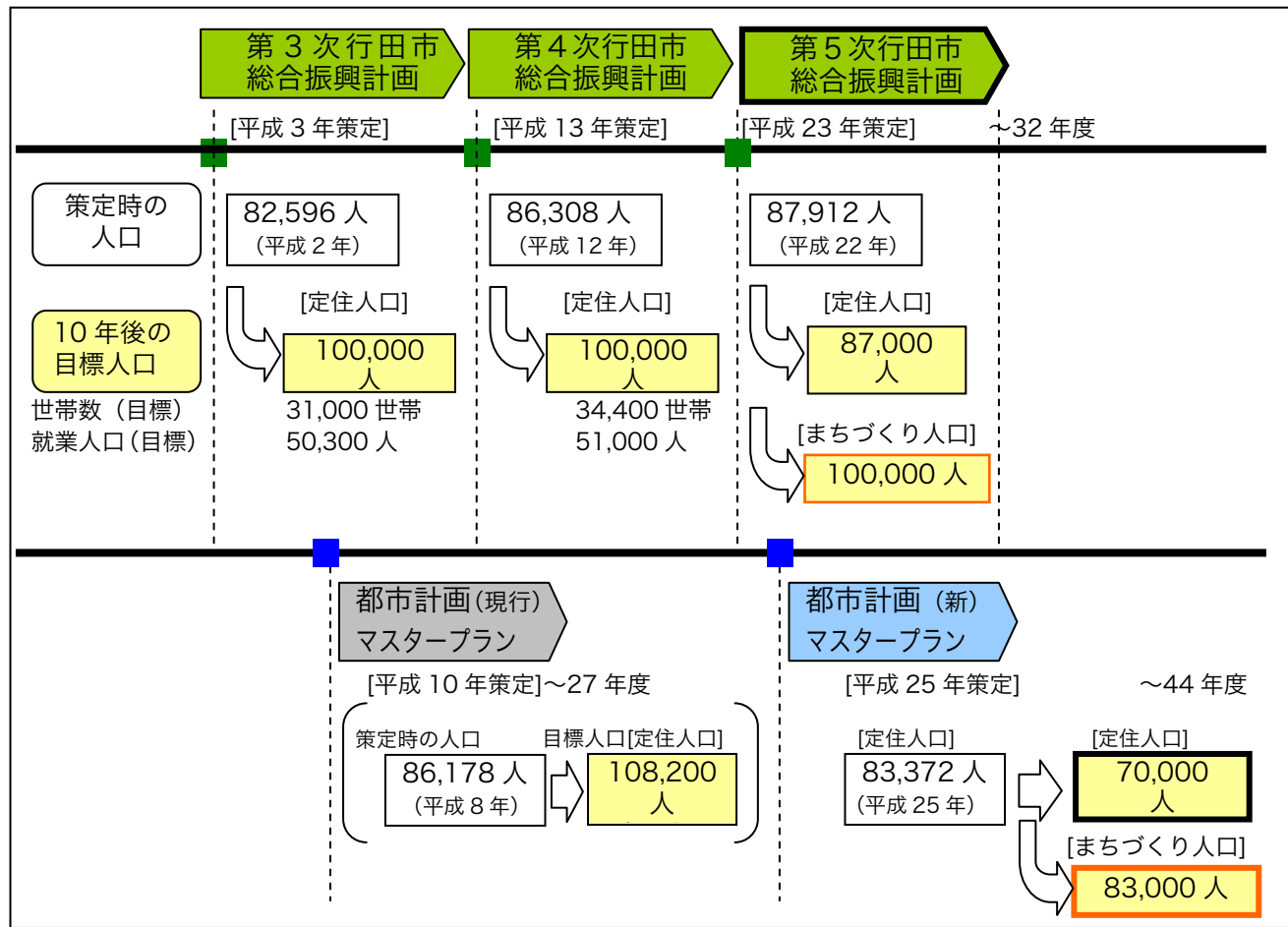
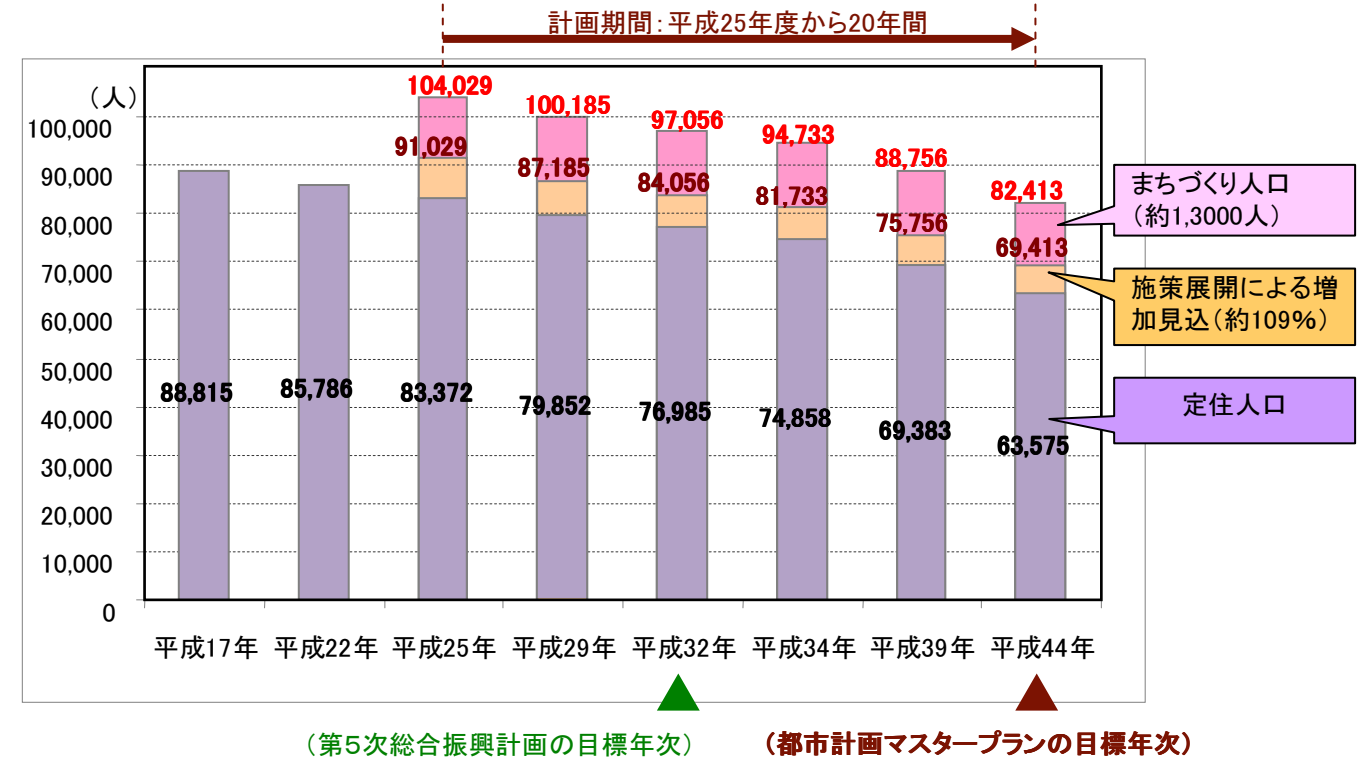


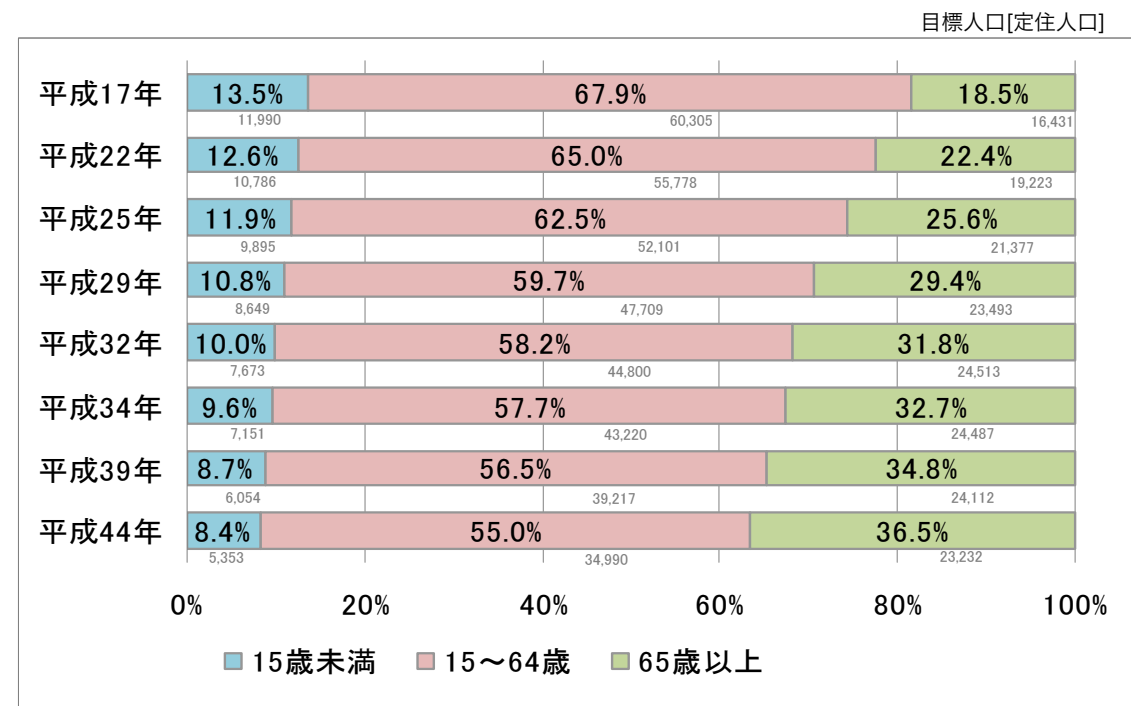
図 総合振興計画・都市計画マスタープランの目標人口

計画年度内における定住人口の推計と目標人口フレームの設定



※平成22年度国勢調査結果を基に、都市計画マスタープランの目標年次である平成44年度までの定住人口をコーホート変化率法により推計

将来人口・年齢3区分別割合の推移



『定住人口』・『まちづくり人口』とは・・・

- ① 『定住人口』とは「夜間人口」のことです。
- ② 『定住人口』のうち、通勤・通学等により一定の人々が日中、市外へ流出します（流出入口）。
- ③ 一方で日中、市内へ流入する人々もいます（流入人口）。つまり、本市に通勤・通学や観光等で訪れる人々です。これが「交流人口」です。
- ④ 『まちづくり人口』とは、①-②+③ = 「昼間人口」のことです。

第5次行田市総合振興計画における目標定住人口の設定について

1. 人口推計方法について

人口推計については、『①コーホート変化率法』と『②コーホート要因法』の2種類があります。

『①コーホート変化率法』とは、過去の人口実績から変化率を求め、その変化率をもとに将来人口を推計する方法です。一方、『②コーホート要因法』は生存率や純移動率を設定して、社会的移動が激しい場合などに適用する方法です。

第5次行田市総合振興計画における推計については、住民基本台帳および外国人登録人口を基にした「①コーホート変化率法」で推計しています。

行田市では、過去の人口実績に特殊な人口変動がほとんどなく、また、将来にわたっても特殊な人口変動が予測されにくいため、コーホート変化率法を適用しています。

2. 目標定住人口の設定について

以下に示す施策の展開により、人口の現状維持を図っていくことで、平成32年の目標定住人口を現状維持の87,000人に設定しています。

人口の方向	人口維持のための主要施策
○自然動態の増加促進	・子育て支援の充実による出生率の上昇
○自然動態の減少抑制	・高齢者の健康増進対策の推進 ・健康寿命の延伸
○社会動態の増加促進	・団塊世代の帰郷促進 ・交通利便性の向上 ・子育て支援や教育環境の充実
○社会動態の減少抑制	・観光振興や優良企業の誘致による雇用促進 ・企業・事業所の撤退抑制 ・市街地および発展創出拠点等のまちの活性化

※自然動態については、子育て支援の充実による出生数の増加と高齢者の健康増進対策による死亡数の減少により、自然動態の増減を0にする（それぞれ年間700人程度）必要があります。

※社会動態については、人口維持のための主要施策を効果的に展開することで、転入促進と転出抑制を図ることで、年間500人程度の社会減を年間100人程度の社会減に転換する必要があります。

平成22年国勢調査速報より（埼玉県総務部統計課資料）

1 埼玉県の人口及び世帯数

- 平成22年国勢調査結果による埼玉県の人口は719万4,957人で、前回調査(平成17年)と比べ、14万714人(約2.0%)増加しました。
- 世帯数は、284万2,662世帯となり、前回調査に比べ、19万2,547世帯(約7.3%)増加しました。

2 市町村の人口

- 人口は、さいたま市の1,222,910人が最も多く、以下川口市500,311人、川越市342,714人と続いています。
- 人口増加数では、さいたま市46,596人増が最も多く、以下川口市20,232人増、越谷市10,631人増と続いており、33市町で増加しています。一方、人口が減少したのは、秩父市3,624人減、行田市3,014人減など、31市町村となっています。
- 人口増加率では、伊奈町の16.2%が最も高く、次いで滑川町12.3%で、この2町で10%以上の増加となりました。また、7市町で5%以上増加しました。一方、人口減少率は、東秩父村-11.8%が最も高く、小鹿野町-7.2%、小川町-7.1%が続いており、10市町村で5%以上減少しました。

(1)人口

《人口の多い市町村》

順位	市町村名	人口
1	さいたま市	1,222,910人
2	川口市	500,311人
3	川越市	342,714人

《人口の少ない市町村》

順位	市町村名	人口
1	東秩父村	3,346人
2	長瀨町	7,910人
3	横瀬町	9,037人

(2)人口増減数

《人口増加数の多い市町村》

順位	市町村名	人口増加数
1	さいたま市	46,596人
2	川口市	20,232人
3	越谷市	10,631人

《人口減少数の多い市町村》

順位	市町村名	人口減少数
1	秩父市	-3,624人
2	行田市	-3,014人
3	小川町	-2,501人

(3)人口増減率

《人口増加率の高い市町村》

順位	市町村名	人口増加率
1	伊奈町	16.2%
2	滑川町	12.3%
3	八潮市	9.9%

《人口減少率の高い市町村》

順位	市町村名	人口減少率
1	東秩父村	-11.8%
2	小鹿野町	-7.2%
3	小川町	-7.1%

参考 行田市 -3.4%
※県内市 ワースト2位

※この速報値は、県内市町村から提出された要計表(調査区域ごとの人口を取りまとめた集計表)を基に埼玉県が集計したものです。したがって、今後、総務省統計局が公表する速報値と一致しない場合があります。

平成22年度版

行田市の現状

[人口の状況]

人口動態(平成22年) 単位:人

	総数	男	女
人口	87,912	43,754	44,158
65歳以上人口	19,079	8,270	10,809

資料:埼玉県町(丁)字別人口調査

世帯(平成17年)

世帯数	30,241
一世帯人数	2.94

資料:国勢調査

段階別人口の推移 単位:人

	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
年少人口(0~14歳)	17,483	15,630	13,804	12,395	11,109
生産年齢人口(15~64歳)	59,633	63,782	63,756	62,493	57,724
老年人口(65歳以上)	9,634	11,875	14,060	16,144	19,079
高齢化率	11.1%	13.0%	15.3%	17.7%	21.7%

資料:埼玉県町(丁)字別人口調査

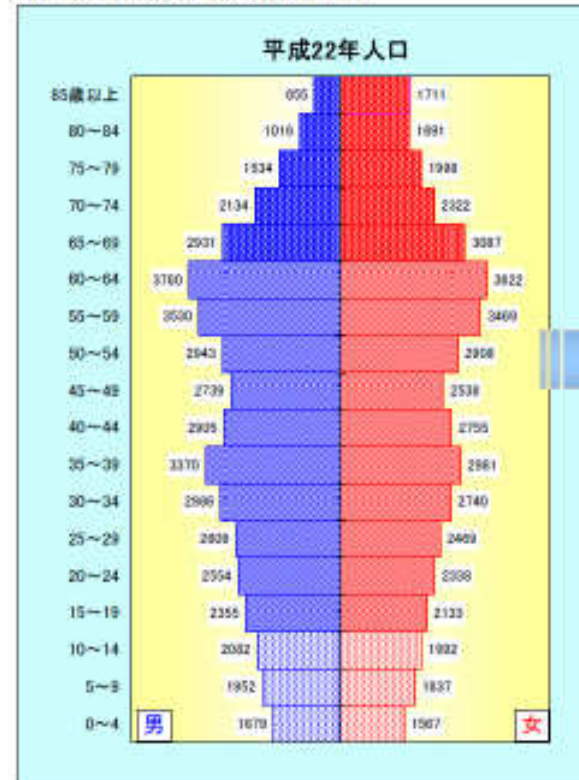
人口動態(平成21年) 単位:人

	総数	男	女
出生数	581	313	268
死亡数	808	448	360
出生率	6.6	(人口千対)	
死亡率	912.5	(人口10万対)	

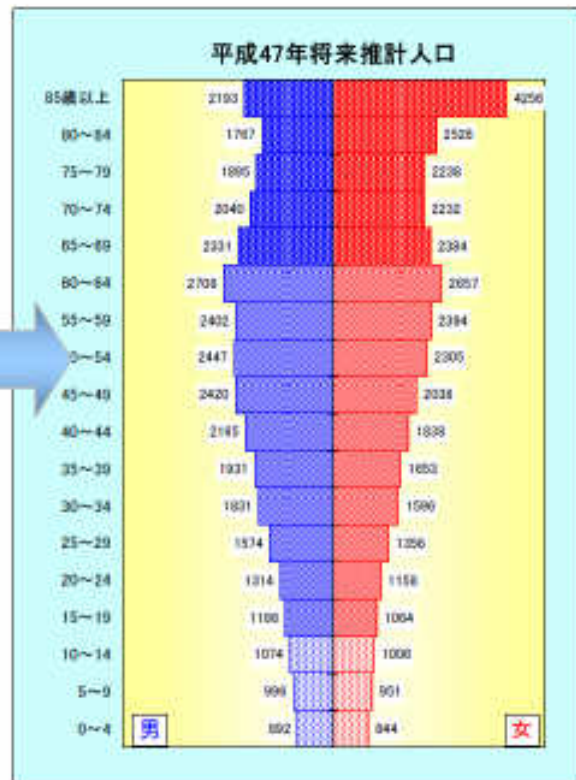
資料:人口動態統計



人口構成の変化(将来推計人口)



資料:埼玉県町(丁)字別人口調査



資料:国立社会保障・人口問題研究所
「日本の市区町村別将来推計人口(平成20年12月推計)」
(平成17年国勢調査人口を基準に推計)

[平均寿命と健康寿命]

(平成21年) 単位:年

	総数	男	女
平均寿命(0歳平均余命)	—	78.81	85.52
65歳健康寿命	—	16.47	19.67
65歳要介護期間	—	1.54	3.51
要介護認定率(65歳以上)	14.97	9.96	18.79

資料:埼玉県の健康寿命算出ソフト「健寿君」

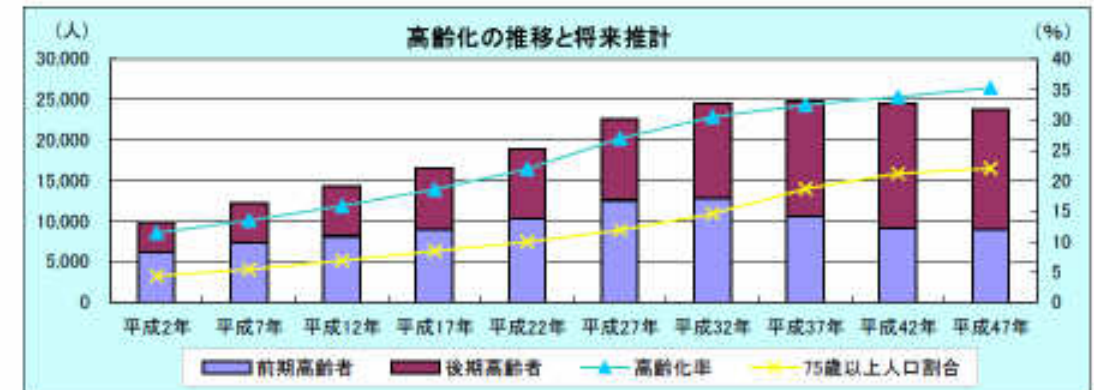
[高齢化の状況]

高齢化の推移と将来推計 単位:人

	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	平成32年	平成37年	平成47年
	国勢調査人口				将来推計人口				
総人口	87,014	90,427	90,530	88,815	86,358	83,609	80,330	76,580	67,666
高齢化率	11.4%	13.5%	15.9%	18.6%	21.9%	27.0%	30.5%	32.5%	35.3%
高齢者人口(65歳以上)	9,931	12,188	14,352	16,505	18,932	22,534	24,512	24,866	23,865
前期高齢者(65~74歳)	6,137	7,323	8,134	9,015	10,362	12,604	12,823	10,569	8,987
後期高齢者(75歳以上)	3,794	4,865	6,218	7,490	8,570	9,930	11,689	14,297	14,878

資料:平成17年までは国勢調査

平成22年以降は「日本の市区町村別将来推計人口(平成20年12月推計)」(平成17年国勢調査人口を基準に推計)



一人暮らしの高齢者の動向 単位:人

	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年
(総数)				
一人暮らしの者	584	801	1,176	1,667
高齢者に占める割合	5.9%	6.6%	8.2%	10.1%
(男)				
一人暮らしの者	116	184	297	463
高齢者に占める割合	2.9%	3.7%	5.0%	6.5%
(女)				
一人暮らしの者	468	617	879	1,204
高齢者に占める割合	8.0%	8.6%	10.5%	12.8%

資料:国勢調査

※棒グラフは「一人暮らしの者」を示し、国勢調査の「単独世帯」を指す。
※折れ線グラフは高齢者人口に占める「一人暮らしの者」の割合を示す。

